

食・農・環境を活かした地域づくり

～所秀雄さんの教えを受け継いで～

垂井町のみならず日本各地、世界各地に大きな足跡を残された所秀雄さんが亡くなられて1年になります。あらゆるモノにとって“～らしさ”が大切で、人それぞれの“～らしさ”を尊重するだけでなく、垂井町には“垂井町らしさ”が、といったように地域社会にはそれぞれの“～らしさ”がある。その“～らしさ”を活かした地域づくりが大切だと、所さんは常々、説いてされました。

今年6月19日で所さん生誕90年を迎えます。これを期に、所さんの教えを受け継いで、これから地域づくりに活かしていくための集まりを持ちたいと思います。所さんとも親交が深かった農民作家の山下惣一さんが九州・佐賀からかけつけてくださいます。山下さんはじめ全国各地から所さんの教えを引き継ぐ方々をお招きして、所さんが形作ってきた“つながり”も垂井町で引き継ぎ、“垂井町らしさ”を活かした地域づくりについて考え、実践していくきっかけとしていきたいと思います。

所秀雄 略歴

大正7年垂井町岩手に生まれる。東京大学卒業後、昭和17年から37年農林省に勤務。その間農地改革、土地改良の立法に参画。昭和32年から昭和36年まで外務省に出向、アメリカ大使館勤務。昭和38年養鶏会社を創立し、平成16年退職。晩年は故郷の岩手に住み、地域づくりに関わった。平成19年4月9日没。



山下惣一(やましたそういち)プロフィール

21世紀のわが国農業のあり方を考え、提唱する農民作家。1936年佐賀県唐津市生まれ。中学卒業以来、農業に従事。農作業のかたわら、自らの暮らしに根ざした小説や農業問題をテーマにしたルポを数多く発表する。

●職歴・経歴

農家の長男として生まれ、中学卒業後、なれば強制的に家業を継がれる。家出を企てたこともあったが、その後は積極的に農業に取り組み、かたわら農民ジャーナリスト、作家として筆をとる。

山形県川西町の生活者大学校(劇団こまつ座主宰)教頭、農民連合九州・共同代表、アジア農民交流センター代表などを務める行動派農民作家。身(からだ)と土(いのち)は一体である。人間は、その土地で育ったものを食べて生活するのが最善とする、“身土不二”(しんどふじ)という考え方を主張。生産者の視点から鋭い提言を続ける。1969年『海鳴り』で第13回農民文学賞、1979年には『減反神社』で第27回地上文学賞を受賞。

●著書

『農業のモノサシ』(創森社)、『産地直想』(創森社)、『農の時代がやってきた』(家の光協会)、『身土不二の探究』(創森社)、『タイの田舎から日本が見える(人間選書197)』(農山漁村文化協会)、『農家の主より消費者へ』(家の光協会)、『村に吹く風』(新潮社)、『ひこばえの歌』(家の光協会)など多数。



プログラム

- 13:00 開場(所さんのDVD放映)
13:15～ 谷・祭囃子
13:40～ 開会
13:50～ 講演「～らしさ」を活かした地域づくり
山下惣一
14:50～ 座談会「所秀雄さんから受け継いだモノ」
山下惣一
北川石松 [元環境庁長官]
富山洋子 [「日本消費者連盟」代表運営委員] ほか
16:00 閉会

